

# ありて mate

2021, 8, 1 No.94

## センター活動登録団体レポート

### NPO 法人 親と教員の会 こどものそと

子育ての主権は親であるという教育理念の元、親と教員と一緒に経営・運営をし、子どもが主体的に活動できる認可外保育施設です。親と子が共に育つための事業(幼稚園部門)と、子育て支援事業として、未就園の地域の親子が遊びに来る、子育てサロン「親と子のふれあい広場」を開催しています。

### オリーブの会

国家資格の公認心理師や構造化されたカウンセリング技法の有資格者も参加し、一般の希望者も受け入れて、グループカウンセリングやピアカウンセリングを行っています。自分の問題を自分自身で解決できるように、寄り添いながら支援し合っています。

### NPO 法人 茶道清風の会

煎茶道・抹茶道の技を深めながら、仲間が集まり、より多くの知恵を出し合い、交流と親睦を深める会です。会員男女がより多く参加し、活動を進め、茶道を通してボランティア活動の推進を図ります。また、日本伝統文化茶道を次代を担う子ども達に、継承しています。

### カーテンコール (高岡演劇鑑賞会)

芸術は不要不急のものではありません。コロナ感染対策をしっかりととりながら、高岡の会場で演劇を鑑賞。会員制。人間の生き方をテーマに、平和、人権、男女問題等々、男女平等を推進する面での話題は豊富。鑑賞を通して芝居を楽しみ、人間関係を豊かにし、差別・格差のない高岡をめざします。

## 案内

### 市民企画講座(企画:多職種ネットワーク高岡) 女性たちによる無料相談会

※予約・問合せは  
TEL 20-1810 まで

内容によりケアマネジャーや社会福祉士、精神保健福祉士など専門の女性相談員が相談に応じます。秘密は守ります。お子さん連れでも大丈夫です。

日時: 9月26日(日) 13:30~16:00 (受付は15:30まで)  
場所: 男女平等推進センター 会議室(ウイング・ウイング高岡6階)

## センター・登録団体等の活動や講座予定

8月	7日(火) 高岡市企画講座(Eフェスタ 2021 ワークショップ)
10日(火) Eネット定例会	14日(火) Eネット定例会
25日(水)~ 9月2日(木) Eフェスタ 2021 1期 展示	16日(木) 男女平等推進プラン情報誌「ありて」第5回編集会議
27日(金) 話スペース「ぼこ あ ぼこ」	19日(日) 学習支援事業講座(主催:シャキット富山 35)
9月	24日(金) 話スペース「ぼこ あ ぼこ」
5日(日)~12日(日) Eフェスタ 2021 1期 ワークショップ	26日(日) 市民企画講座(企画:多職種ネットワーク高岡)

### 相談室(配偶者暴力相談支援センター)

専任相談員が、DVや生き方、夫婦の問題等色々な相談を受けています。

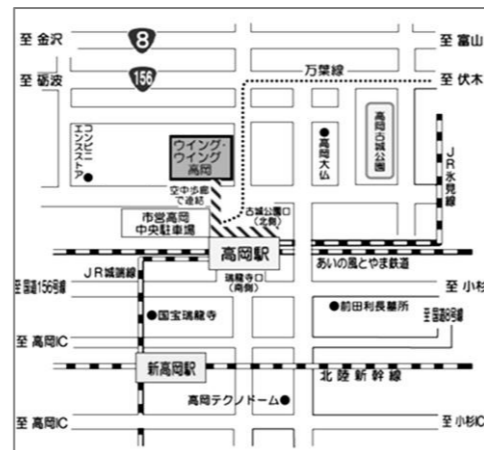
※面接相談は要予約

相談時間 月・火・水・金 9:30~16:30  
木 14:00~20:00

休業日 土曜・日曜・祝日・毎月第4月曜・年末年始  
相談室専用電話 (0766) 20-1811

### 高岡市男女平等推進センター

休館日 毎月第4月曜日、12月29日~翌年1月3日  
所在地 〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)  
問合せ TEL:(0766)20-1810 FAX:(0766)20-1815  
E-mail: gec@city.takaoka.lg.jp  
HP: <http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html>



「ジェンダーギャップをなくし、  
誰もが自分らしく輝ける社会を実現しよう」

高岡市男女平等推進市民委員会 委員

大坪 洋輔 さん

公益社団法人高岡青年会議所 第51代理事長を務めております大坪洋輔と申します。

国連の持続可能な開発目標(SDGs)の一つとしても設定されている「ジェンダー平等」について、お話ししたいと思います。

先日発表された世界経済フォーラムの「ジェンダー・ギャップ指数(男女平等指数)」において、日本の順位は調査対象156カ国のうち120位と先進国の中でも最低レベルという非常に残念なニュースがありました。

日本は女性の政界進出や女性管理職の少なさ、男女の賃金格差などにおいても世界的に遅れをとっています。先進国として世界をリードする日本がこのままで良いのでしょうか。

男性も女性も性別に関わらず自分らしく生きるために、日本には多くの課題がありますが、まずはこうした問題に対する理解を深めることが大事だと思います。

身近な例を挙げると、家事や育児や介護などの「無償労働」も大きな問題の一つです。「無償労働」とはアンペイドワークとも呼ばれ、社会活動や人間の生活に必要な不可欠であるにもかかわらず、お金が支払われない労働です。

共働きの家庭が増えた現代でも家庭内での「無償労働」は女性が行っていることが多く、女性がやるのが「あたりまえ」という意識が根付いているからだと考えられます。

この「あたりまえ」に対する意識を変えていかないと、ジェンダーギャップは解消されず、女性の社会進出の機会も阻まれていきます。

一人ひとりがジェンダーに対する意識をもち行動することで身近なジェンダーギャップは解消されます。そういった小さな行動が積み重なり、大きな運動に繋がっていき、社会により良い影響とインパクトが生まれるのではないのでしょうか。

ジェンダーギャップを解消し、性別に縛られることのない、誰もが自分らしく輝ける社会を築いていきましょう。

